

多治見市学校施設整備計画

令和2年1月

(令和6年3月改定)

(令和8年6月改定)

多治見市教育委員会事務局

《 目 次 》

1. 学校施設整備計画の背景・目的等

1－1. 背景	1
1－2. 目的	1
1－3. 計画の位置づけ	1
1－4. 計画期間	1
1－5. 対象施設	2
1－6. 計画の進め方	2

2. 学校施設の目指すべき姿

(1) 安全性の確保	3
(2) 教育機能の向上	3
(3) 施設の有効活用	3

3. 学校施設の実態

学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設一覧	4
(2) 学校施設の保有状況	5
(3) 学校施設の配置状況	6
(4) 児童生徒数及び学級数の変化	7

4. 学校施設整備の基本方針

4－1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 学校施設整備の基本方針	8
(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針	8

4－2. 改修等の基本的な方針

(1) 目標使用年数	9
(2) 改修周期	9
(3) 保全の種類	10

5. 基本的方針等を踏まえた施設整備の水準等

5－1. 工事の整備項目・水準

(1) 躯体保全のための整備	11
(2) 安全のための整備	11
(3) 老朽化対策のための整備	11
(4) 機能向上のための整備	11

5－2．維持管理の項目・手法

（１）点検・診断	11
（２）施設カルテ	12
（３）各種調査	12

6．学校施設整備計画

6－1．小中学校	13
（１）整備内容の詳細	15
（２）実施方法と時期	16
6－2．学校給食施設（共同調理場）	17
6－3．幼稚園	18

7．整備計画の継続的運用方針

7－1．情報基盤の整備と活用	19
7－2．推進体制等の整備	19

【資料編】

- 1．学校施設一覧
- 2．小学校区別人口推計（年齢三区分別）

1. 学校施設整備計画の背景・目的等

1-1. 背景

多治見市の学校教育施設は、昭和40年代後半（1970年ごろ）から平成初期（1990年ごろ）にかけての人口増加に伴う年少人口の増加に合わせて整備され、全公共施設の延床面積の約4割を占めています。これらの施設の大半は完成から30～40年以上が経過し、建替えや大規模改修を必要とする時期を迎え、その整備のために多額の費用が必要となります。

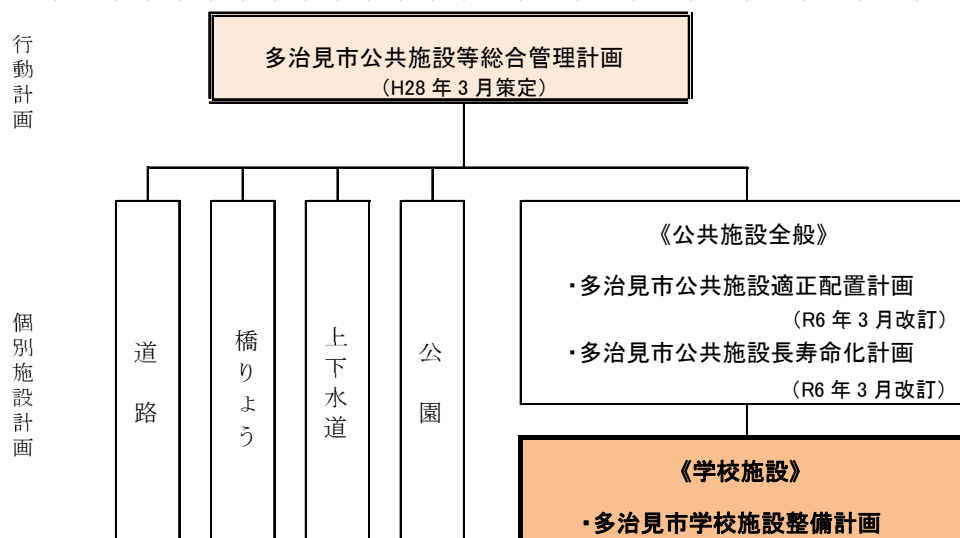
今後、人口減少や少子化・高齢化、厳しい財政状況が続くことが見込まれる中、多治見市の将来を見据え、学校教育施設をどのように整備していくべきかを検討していくため、令和2年に学校施設整備計画を策定しました。

1-2. 目的

多治見市学校施設整備計画（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえ学校施設について多面的かつ総合的に検討するとともに、学校施設の整備時期や整備手法を明確にし、費用の縮減と平準化を図ることを目的としています。

1-3. 計画の位置づけ

本計画の位置づけは、下図のとおりです。



1-4. 計画期間

本計画の計画期間は、公共施設適正配置計画に合わせて、次のとおりに設定します。

《計画期間》約40年間 令和2（2020）年度～令和40（2058）年度

1-5. 対象施設

本計画における対象施設は、次のとおりです。

種別	施設数
小学校	13 校
中学校	8 校
学校給食施設（共同調理場）	3 施設
幼稚園	5 園

1-6. 計画の進め方

本計画は、市全体の公共施設の適正配置方針に基づき、学校施設を計画的に整備・維持するための実行指針です。計画期間内の学校施設整備を着実なものとするため、計画の内容を実行計画と展望計画に分けて進めます。

実行計画は、市の政策を定める最上位計画である「総合計画」と連動させて実行できるよう期間を4年間とし、具体的な実施内容を示すものです。

本計画の進行管理は、PDCAサイクルにより行います。毎年度、総合計画上で進捗状況を確認・評価しながら、次期実行計画期間を行う整備事業の見直しを図ります。

また、展望計画は別に定める「多治見市公共施設適正配置計画」に準拠し、「多治見市公共施設長寿命化計画」を踏まえて更新します。

《イメージ図》

年度	R2～R5 (2020～2023)	R6～R13 (2024～2031)			R14～R21 (2032～2039)		R22～R29 (2040～2047)		R30～R40 (2048～2058)		
総合計画	7次総合計画	8次総合計画			9次総合計画		10次総合計画		11次総合計画		
	後期計画	前期計画	後期計画	前期計画	後期計画	前期計画	後期計画	前期計画	後期計画	前期計画	後期計画
行政改革大綱	…	9次行革	10次行革	11次行革	12次行革	13次行革	14次行革	15次行革	16次行革	17次行革	…
計画策定	実行計画	展望計画									
今回見直し	計画見直し	実行計画	展望計画								
計画見直し		計画見直し	実行計画	展望計画							
計画見直し			計画見直し	実行計画	展望計画						

(これ以降も、同様)

2. 学校施設の目指すべき姿

学校施設は、次の考え方に基づいて整備を進めます。

（１）安全性の確保

学校施設は、子どもたちが日々学び生活する場であることから、改築（建替え）や改修等を行う場合は、安心安全で快適な学習環境を確保することが何より必要です。そのためには、施設の老朽化の現状を把握した上で、計画的な改築（建替え）や保全を図るとともに、計画的な予防保全※も合わせて実施します。

※予防保全…不具合等が発生してから工事を行うのではなく、あらかじめ計画した時期に計画の部位の工事を実施することをいう。

（２）教育機能の向上

①ハード面

改築（建替え）や長寿命化を行う場合には、施設の機能、性能を求められる水準まで引き上げるとともに、スロープやエレベータ設置等のバリアフリー化など現在求められる基準を満たすよう整備を進めます。

学校施設の更新を検討するに当たっては、統廃合等の可能性も視野に入れ、望ましい学校規模を維持します。

②ソフト面

子どもたちは集団の中で学び合います。子どもたちが社会性、協調性を養うことができる教育環境を確保するため、多様な学習や活動が可能となるような施設配置、教育機能の向上を目指します。

（３）施設の有効活用

今後、園児児童生徒数や学級数の減少に伴い施設の規模が過大となり、余剰スペースの増加が見込まれます。そのため他施設の機能移転（複合化）や教育に支障のない範囲内で、地域の実情やニーズに応じた活用方法を検討します。

また、他施設の機能移転（複合化）の見込みがない場合は、建物を減築するなど適正規模・適正配置を検討します。

3. 学校施設の実態

学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設一覧

①小学校・中学校

(令和5(2023)年10月1日現在)

種 別	施設名	代表 建築年月	総延床 面積 (㎡)	児童生徒数 (人)		学級数	
				通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小 学 校	1 養正小学校	S53.3	7,843	334	14	12	3
	2 精華小学校	S46.3	7,510	748	15	24	2
	3 共栄小学校	S43.3	5,031	255	12	10	2
	4 昭和小学校	S56.3	7,369	302	5	12	1
	5 小泉小学校	R3.3	8,718	716	14	24	3
	6 池田小学校	H25.3	7,839	318	10	12	2
	7 市之倉小学校	S60.3	6,115	158	4	6	1
	8 滝呂小学校	H18.3	9,781	468	18	16	3
	9 南姫小学校	S42.3	4,802	146	5	6	2
	10 根本小学校	S50.3	6,799	440	13	15	2
	11 北栄小学校	S55.3	8,708	383	10	13	2
	12 脇之島小学校	S62.3	6,880	194	9	8	2
	13 笠原小学校	S40.3	7,509	331	11	12	2
	小計		94,904	4,793	140	170	27
中 学 校	1 陶都中学校	H11.4	9,324	557	14	17	3
	2 多治見中学校	H13.3	8,484	491	5	15	1
	3 平和中学校	H5.3	8,066	174	4	7	1
	4 小泉中学校	S49.6	8,164	456	12	14	2
	5 南ヶ丘中学校	S58.3	7,318	258	7	9	2
	6 北陵中学校	S54.8	7,872	362	7	12	2
	7 南姫中学校	S63.3	6,159	102	8	4	2
	8 笠原中学校	S51.5	8,666	159	5	6	2
	小計		64,053	2,559	62	84	15
小・中学校合計			158,957	7,352	202	254	42

②学校給食施設（共同調理場）

(令和5(2023)年10月1日現在)

施設名	代表 建築年月	総延床 面積 (㎡)	調理 食数	調理 能力
1 食育センター	R3.6	3,677	3,934	5,000
2 養正小学校近接校対応調理場	H28.5	959	963	1,000
3 昭和小学校近接校対応調理場	H30.8	1,006	1,292	1,500
小計		7,216	6,189	7,500

③幼稚園

(令和5(2023)年10月1日現在)

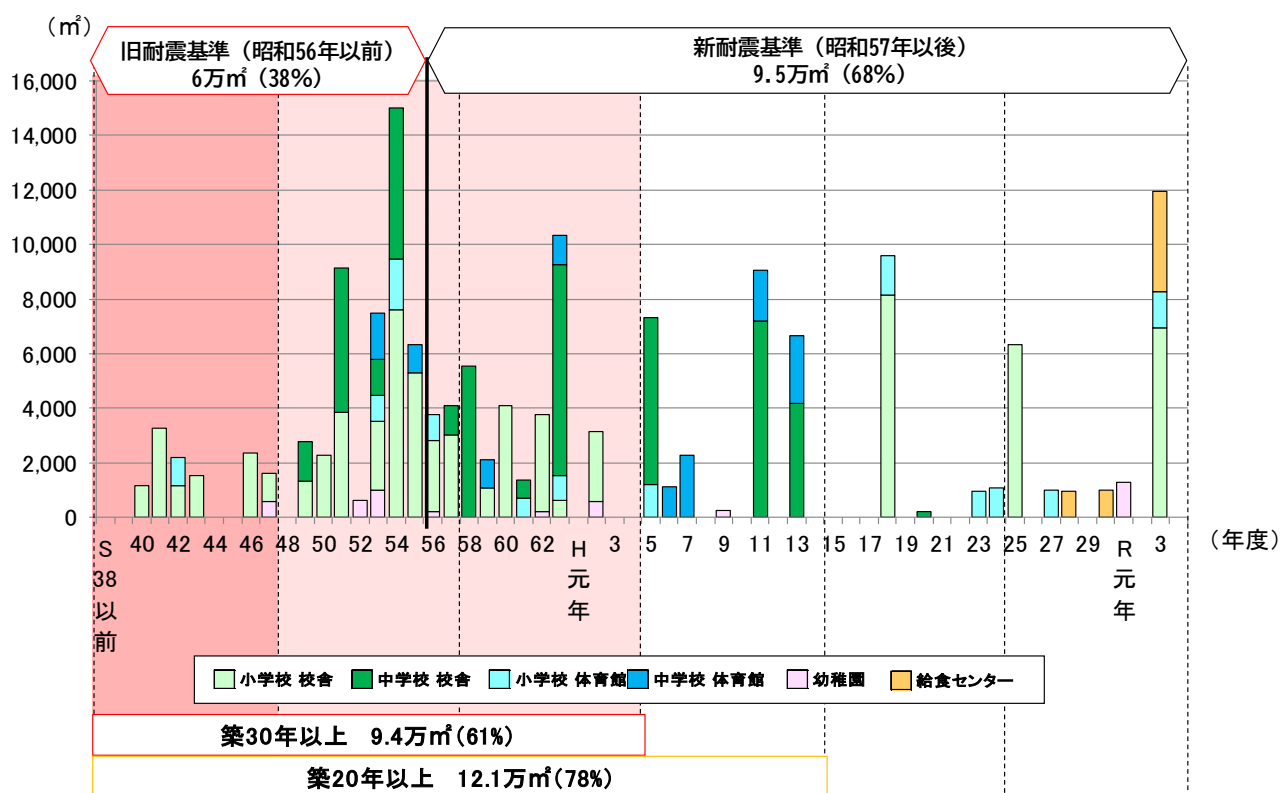
施設名	代表 建築年月	総延床 面積 (㎡)	園児数	学級数
1 養正小学校附属幼稚園	S47.2	865	39	3
2 精華小学校附属愛児幼稚園	H31.3	1,280	93	6
3 昭和小学校附属幼稚園	S47.10	554	43	3
4 明和幼稚園	S52.4	882	29	3
5 笠原小学校附属幼稚園	S53.3	1,260	45	3
小計		4,841	249	18

(2) 学校施設の保有状況

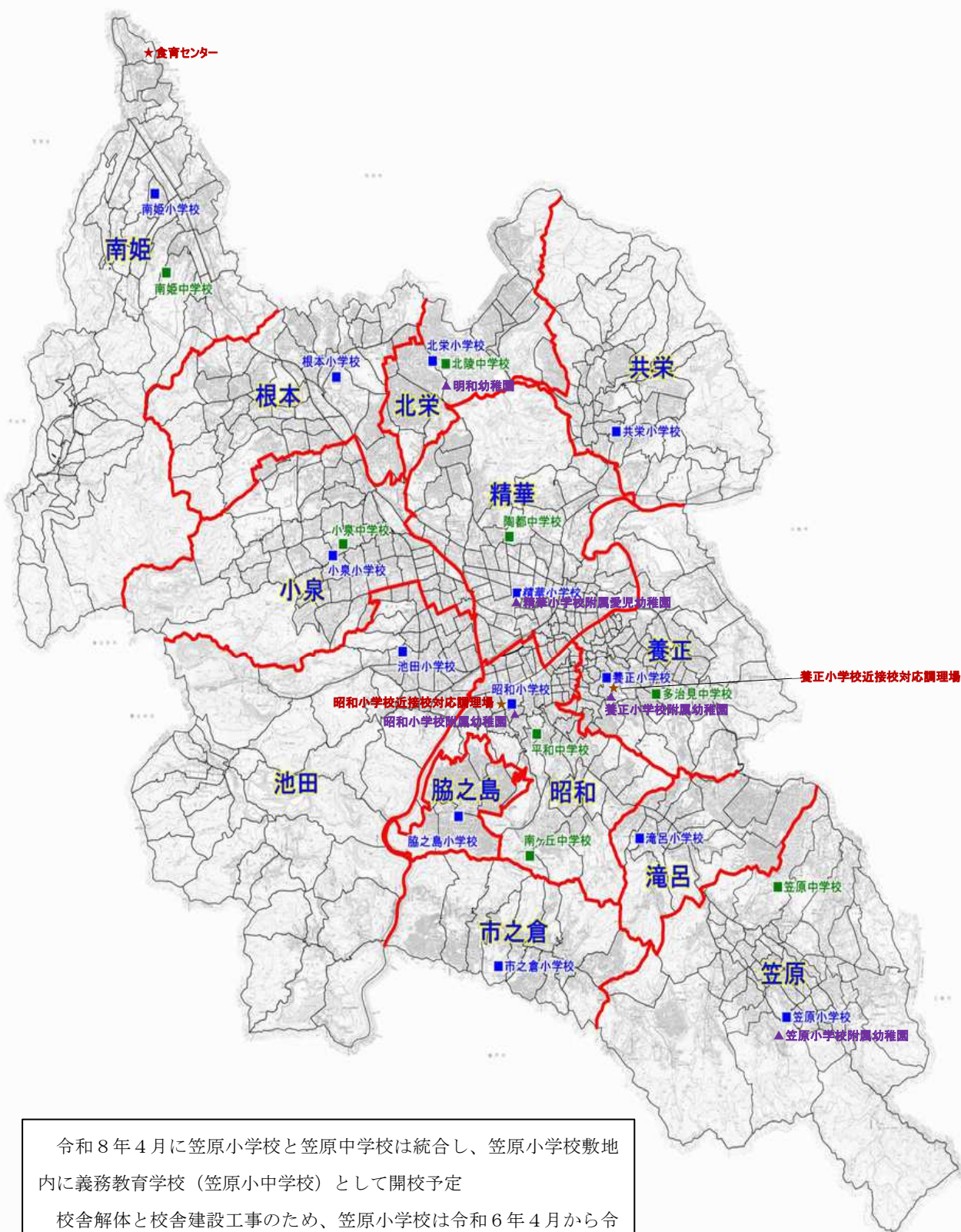
学校施設の多くは、昭和40年代後半(1970年ごろ)から平成初期(1990年ごろ)にかけての人口増加に伴う年少人口の増加にあわせて整備されました。

学校施設のうち、完成から30~39年経過したものは約2.7万㎡(学校施設のうち17%)、40年以上経過したものは約8.8万㎡(同55%)にも上り、これらの老朽化対策が必要です。

築年別整備状況



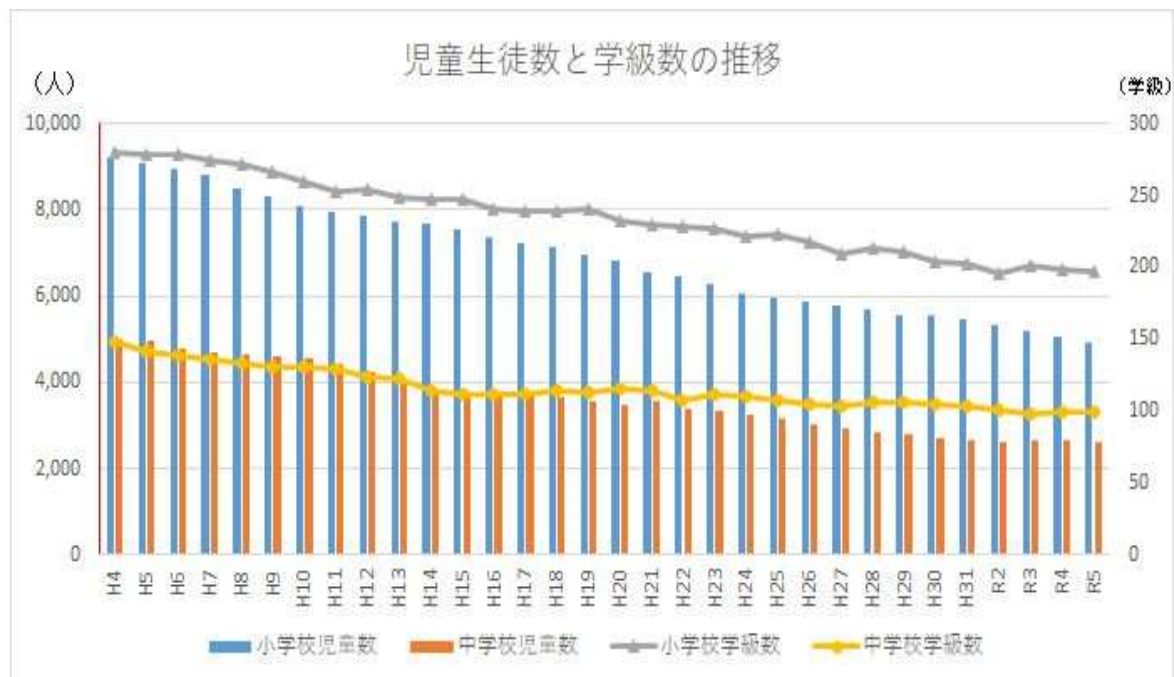
(3) 学校施設の配置状況



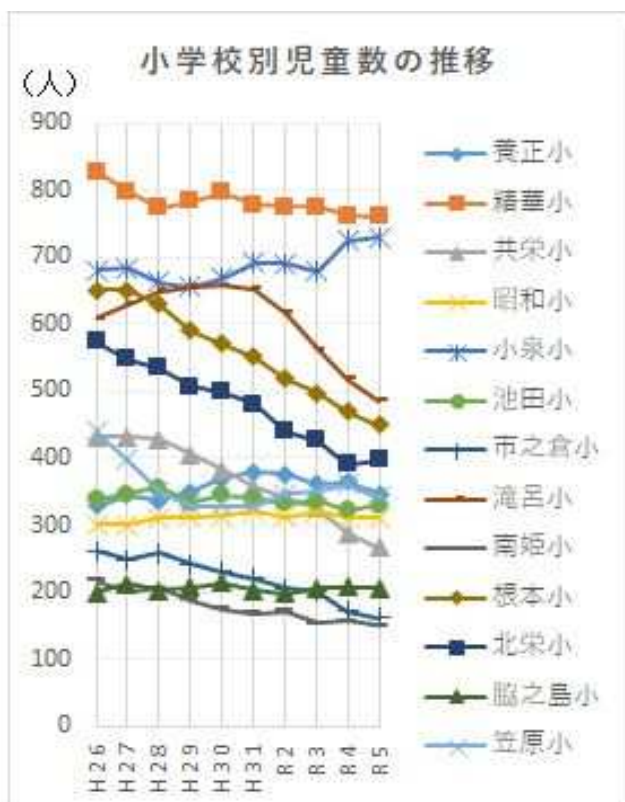
多治見市立小学校の通学区域図 S=1/50,000

(4) 児童生徒数及び学級数の変化

①これまでの推移（市全体）



②学校別の推移（直近 10 年間）



4. 学校施設整備の基本方針

4-1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 学校施設整備の基本方針

今後見込まれる厳しい財政状況や人口減少を考慮すると、従来のように50年程度で改築（建替え）をしていくことは困難です。このため、学校施設については、適切な時期に適切な保全工事を行うことにより、施設をできる限り長く使用する考え方「長寿命化工事」を基本方針とします。長寿命化工事を実施するに当たっては、安全性の確保を第一に整備項目を絞るとともに、原則仮設校舎を設置せずに事業費の圧縮を図ります。また、学校施設整備に係る市の財政負担を軽減するため、国の補助制度を積極的に活用しながら、園児児童生徒数に応じた適正規模の範囲内で整備を行います。

ただし、統合もしくは小中一貫校化を行う場合、整備コストや学校運営上のメリット等が大きい場合、または合理的な理由がある場合は、改築（建替え）による学校施設整備を行います。

また一方で、園児児童生徒数の減少により生じた余剰スペースは有効活用や建物の減築を検討します。

(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

令和6（2024）年3月に策定した第2次多治見市公共施設適正配置計画において、主要な公共施設の方向性を定めています。学校施設の方向性については、次のとおりです。

施設分類	方向性
小学校	小学校は、その範囲（校区）が地域の活動範囲であり地域の核・象徴的施設でもあることから、極力維持します。そのため、余剰スペースを利用した他施設の機能移転（複合化）や適正規模となるよう減築を進めます。ただし、少人数になることで学校運営上の支障が想定される場合は、学校統合を検討します。
中学校	中学校は、当面現状のまま維持します。ただし、少人数になることで、学校運営上の影響（部活動・クラブの運営、学校行事の実施、生徒間の必要な切磋琢磨、体育等の授業の実施など）が想定される場合は、統合を検討します。
学校給食施設	児童・生徒数の減少に伴い調理能力に余力が生じた段階で、調理場の統合を進めます。また、単独調理場（北栄北陵調理場含む）は、児童・生徒数を考慮し、調理機能の集約化を検討します。
幼稚園	幼稚園の機能は、当面維持します。今後は、幼稚園に対する保育ニーズを考慮し、良好な幼児教育環境を前提に、保育園との統合（認定こども園化）や他施設との複合化などを進めます。

※第2次多治見市公共施設適正配置計画（令和6年（2024）年3月策定）から抜粋

4-2. 改修等の基本的な方針

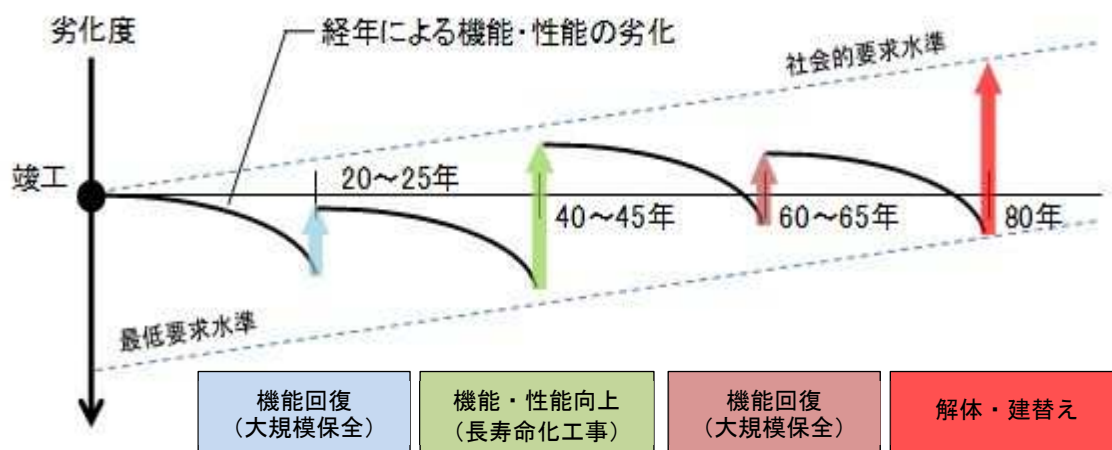
(1) 目標使用年数

多治見市公共施設長寿命化計画に基づき、学校施設の目標使用年数は構造別に次のとおり定めます。

構造		目標使用年数
鉄筋コンクリート造（RC造） 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）		80年
鉄骨造	重量鉄骨造（S造）	80年
	軽量鉄骨造（LS造）	60年

(2) 改修周期

学校施設の大半は鉄筋コンクリート造または重量鉄骨造であり、上記のとおり80年間使用することを目標とします。80年間使用していくために、20年程度の周期で大規模保全や長寿命化工事を行い施設の劣化を抑えるとともに、社会的要求水準の変化に対応していきます。



(3) 保全の種類

保全の種類	
	部分 全体
機能回復	修繕 大規模保全
性能向上	改修 長寿命化工事

保全の種類	対象となる工事内容
修繕	修繕とは、施設の一部に生じている損耗や機能低下に対する機能（原状）回復のための工事。
改修	改修とは、施設の一部に生じている機能低下、又は、不足している機能に対する性能向上のための工事。
大規模保全	大規模保全とは、経年劣化による損耗や機能低下に対する機能（原状）回復を全面的に行う工事。 屋根防水、外壁、内装等の改修、トイレ等の設備機器の改修を行うもの。 また、将来的な損耗や機能低下を防ぐための予防保全を含む。
長寿命化工事	長寿命化工事とは、経年劣化による損耗や機能低下に対する機能（原状）回復するための工事とともに、建物の機能や性能を向上させる工事。 コンクリートの中性化対策、鉄筋の腐食対策、耐久性に優れた仕上げ材への取替。 多様な学習内容・学習形態への対応、バリアフリー化、防災・防犯対策、省エネルギー機器へ更新等を行うもの。

※学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（文部科学省）を基に作成

5. 基本的方針等を踏まえた施設整備の水準等

5-1. 工事の整備項目・水準

学校施設を長寿命化するに当たり、あらゆる部位や設備を工事することは本市の財政状況を考慮すると現実的ではありません。よって、学校施設をできるだけ長く、安全かつ機能的に使っていくために必要な整備項目を次項に定めます。また、整備水準は多治見市公共施設長寿命化計画の保全項目に即しながら、各学校施設の現状に合わせて進めます。

(1) 躯体保全のための整備

- ・屋根防水、屋根改修
- ・外壁改修

(2) 安全のための整備

- ・防災設備改修

(3) 老朽化対策のための整備

- ・電気設備改修
- ・機械設備改修
- ・内装、建具改修

(4) 機能向上のための整備

- ・トイレ改修
- ・セキュリティ整備
- ・バリアフリー改修

5-2. 維持管理の項目・手法

老朽箇所や危険箇所を早期に発見し、適正なタイミングで適切な保全を実施するために、下記の項目・手法により維持管理を行います。

(1) 点検・診断

項目	内容	頻度
法定点検	各種法令等に基づき、各施設管理者（教育総務課、各学校）が資格者または専門業者に依頼して点検・診断を実施する。	法令等で定める時期
自主点検	「公共施設点検マニュアル」に基づき、各施設管理者（教育総務課、各学校）が点検・診断を実施する。	年1～2回程度

適切な維持管理を推進するため、下図に示す施設カルテを整備し、随時情報更新をすることで学校施設の維持管理を容易にするとともに、工事・修繕等を検討する際の基礎資料とします。

学校施設を長く使っていくためには躯体の健全性を確保する必要があることから、コンクリート躯体に関する下記の調査を行います。

項目	内容	実施時期
中性化深さ	コンクリート躯体の中性化深さを調査し、その後の保全計画の策定及び見直しに反映させる。	竣工後 30 年程度を経過した時点
圧縮強度	コンクリート躯体の圧縮強度を調査し、その後の保全計画の策定及び見直しに反映させる。	長寿命化工事（大規模保全）の設計前

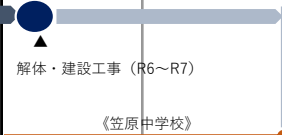
6. 学校施設整備計画

6-1. 小学校・中学校

小学校及び中学校の施設整備年次計画は、公共施設適正配置計画を踏まえ次のとおり定めます。なお、方向性については、地元、PTA、学校等と十分に協議を重ねながら進めます。

<小学校>

No.	施設名	方向性	実行計画			
			R6	R7	R8	R9
			2024	2025	2026	2027
1	養正小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 将来的には校舎の有効活用を図るため余剰スペースを活用し、養正幼稚園と複合化することを検討します（養正幼稚園が双葉保育園と統合となる場合は別途余剰スペースの活用を検討。）。		現状維持		
2	精華小学校	当面は現状のまま維持します。 完成から50年以上経過していることから、建設検討委員会を立ち上げ、令和14年度を目標に建替えます。			▲ 建設検討委員会 (R8～)	
3	共栄小学校	当面は現状のまま維持します。 完成から50年以上経過していることから、長寿命化の整備を進めていきます。 将来的にはプレハブ校舎部分を減築または隣接する他施設と複合化することも検討します。		現状維持		
4	昭和小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 将来的には校舎の有効活用を図るため余剰スペースを活用し、昭和幼稚園と複合化することを検討します（昭和幼稚園が他施設と統合になる場合は別途余剰スペースの活用を検討。）。		現状維持		
5	小泉小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 将来的に余剰スペースが発生した場合は、他施設との複合化を図ります。		現状維持		
6	池田小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 将来的には学級数減少により余剰スペースの発生が想定されるため、他施設との複合化を検討します。		現状維持		
7	市之倉小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 ただし、児童数、学級数に比べて校舎規模が過大であるため、長寿命化工事に併せて適正規模となるよう校舎の減築を検討します。		▲ 検討 (R7～)		

8	滝呂小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 また、将来的に余剰スペースが発生した場合は他施設との複合化を図ります。	現状維持	
9	南姫小学校	当面は現状のまま維持します。 完成から50年以上経過しているため、今後の児童数減少を考慮し、長寿命化または小中学校舎共用化(併設校)などを慎重に検討します。	現状維持	▲ 検討 (R9～)
10	根本小学校	施設の長寿命化を行っているため、当面は現状のまま維持します。 将来的に余剰スペースが発生した場合は校舎の減築を検討します。	現状維持	
11	北栄小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 将来的には長寿命化工事に併せて適正規模となるよう校舎の減築を検討します。	現状維持	
12	脇之島小学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。 ただし、児童数、学級数に比べて校舎規模が過大であるため、長寿命化工事に併せて適正規模となるよう校舎の減築を検討します。	現状維持	▲ 検討 (R8～)
13	笠原小学校	令和6(2024)年度から義務教育学校(笠原小中学校)建設工事に着手します。 完成後は長く使用するために適切に管理します。 将来的に余剰スペースが発生した場合は、他施設との複合化を図ります。	 小中一貫校として現状維持 (R8～)	《笠原中学校》

<中学校>

No.	施設名	方向性	実行計画			
			R6	R7	R8	R9
			2024	2025	2026	2027
1	陶都中学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。	現状維持			
2	多治見中学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。ただし、生徒数、学級数に比べて校舎規模が過大となるため、校舎の減築を検討します。	現状維持			
3	平和中学校	当面は現状のまま維持します。 ただし、将来的に少人数になることが想定される上、同一小学校区に南ヶ丘中学校があることから、将来的な統合などを検討します。	現状維持			

4	小泉中学校	当面は現状のまま維持します。 完成から40年以上経過していることから、整備時期や手法（建替えや長寿命化など）について検討します。	現状維持	▲ 検討（R7～）
5	南ヶ丘中学校	当面は現状のまま維持します。 ただし、将来的に少人数になることが想定される上、同一小学校区に平和中学校があることから、将来的な統合などを検討します。	現状維持	
6	北陵中学校	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。ただし、生徒数、学級数に比べて校舎規模が過大となるため、校舎の減築を検討します。	現状維持	
7	南姫中学校	当面は現状のまま維持します。 今後の生徒数減少を考慮し、南姫小学校と同様に小中学校舎共用化などを慎重に検討します。	現状維持	▲ 検討（R9～）
8	笠原中学校	令和6(2024)年度から義務教育学校(笠原小中学校)建設工事に着手します。 完成後は長く使用するために適切に管理します。 将来的に余剰スペースが発生した場合は、他施設との複合化を図ります。	現状維持 《笠原小学校》 解体・建設工事（R6～R7）	小中一貫校として現状維持（R8～）

また、劣化状況や工事優先順位などに応じて実施するものとして、具体的な整備時期と整備内容を詳細化した部内保全計画に示し運用します。なお、施設の老朽度や破損故障等の状況を踏まえ毎年見直すとともに、社会情勢の動向や法改正による状況変化等により新たに整備事業を行う場合は内容を追加していきます。

（１）整備内容の詳細

■ 躯体保全のための整備

➤ 屋上防水及び屋根工事

- ・校舎棟、屋内運動場、プール棟、その他施設（外トイレ棟、プロパン庫等）

➤ 外壁工事

- ・校舎棟、屋内運動場

■ 安全のための整備

➤ 防災設備…法定点検結果に基づく修繕ではない設備更新

- ・火災警報設備、非常通報設備

■ 老朽化対策のための整備

➤ 電気設備

- ・照明設備（LED化）、電話設備、放送設備、火災受信機／緊急地震速報設備、インターホン設備、その他の電気設備

- 機械設備
 - ・給排水設備、貯水槽設備（受水槽・高架水槽等）、ポンプ設備（揚水・消火ポンプ等）、昇降設備（エレベーター、リフト等）、その他の機械設備
- 内装（建具、天井、床、壁、黒板、造作家具等）
 - ・普通教室/特別支援教室、特別教室、廊下（外廊下含む）、屋内運動場、プール（プールサイド、プール槽等）
- 建具工事
 - ・校舎棟（内部・外部）
- その他
 - ・その他施設（外部トイレ、プロパン庫等）、運動場整備
- 機能向上のための整備
 - トイレ洋式化工事
 - セキュリティ整備（防犯カメラ・電子錠）
 - バリアフリー改修
 - その他
 - ・空調設備（エアコン）、焼却炉の解体撤去

（２）実施方法と時期

工事効率の向上や工事費縮減の観点から可能な限り学校単位で実施します。ただし、躯体保全のための整備（屋上防水・屋根や外壁の改修）やトイレ改修は、劣化の状況に応じて随時実施していきます。

なお、工事は原則夏休み期間を中心に実施します。

6-2. 学校給食施設（共同調理場）

学校給食施設の施設整備年次実行計画は、学校給食基本方針及び公共施設適正配置計画に則り次のとおり定めます。

施設名	方向性	実行計画			
		R6	R7	R8	R9
		2024	2025	2026	2027
食育センター	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。		現状維持		
養正小学校 近接校対応 調理場	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。		現状維持		
昭和小学校 近接校対応 調理場	当面は現状のまま維持し、長く使用するために適切に管理します。		現状維持		

6-3. 幼稚園

幼稚園の施設整備実行計画は、公共施設適正配置計画に則り次のとおり定めます。

施設名	方向性	実行計画			
		R6	R7	R8	R9
		2024	2025	2026	2027
養正小学校 附属幼稚園	当面は現状のまま維持します。 将来の方向性について、①双葉保育園との統合（認定こども園化）、②養正小学校への移転（複合化）などを早期に検討します。方向性の決定後は、R15(2033)年度までを目標に実行します。		現状維持		
精華小学校 附属 愛児幼稚園	当面は現状のまま維持します。		現状維持		
昭和小学校 附属幼稚園	当面は現状のまま維持します。 将来の方向性について、他施設との複合化（昭和小学校、池田保育園など）などを検討します。方向性の決定後は、R15(2033)年度までを目標に実行します。		現状維持		
明和幼稚園	園児の著しい減少により令和7年度末に閉園します。	現状維持	R7度末閉園		
笠原小学校 附属幼稚園	笠原保育園との統合（認定こども園化）をします。 （目標：令和8(2026)年度まで）	現状維持	笠原保育園との統合		
		《笠原保育園》	統合または複合化して機能維持		

7. 整備計画の継続的運用方針

7-1. 情報基盤の整備と活用

本計画を着実に実施するためには、学校施設の基本情報、工事・修繕履歴や保守点検情報などを的確に把握することも重要です。これらの情報は、施設カルテ（p.12 参照）に随時入力し、保管・蓄積することで、本計画の実施及び計画見直し等に活用していきます。

また、光熱水費や施設運営費などについても的確に把握し、毎年度更新する公共施設白書において情報共有を図ります。

7-2. 推進体制等の整備

本計画は、教育委員会事務局教育総務課が中心となり実行していきますが、財政との連動等が必要になることから、市長部局や公共施設等整備検討委員会と連携しながら一体となって計画を推進します。

【資料編】 1. 学校施設一覧

施設名称 / 主要建物	建築 年月	経過 年数	総延床 面積(㎡)	延床 面積(㎡)	構造	階数 (地上/地下)	備考
小学校							
養正小学校			7,843				
特別・普通教室棟(北舎)	S53.3	45年		1,945	RC	4	調理場部分(63.8㎡)は除く
特別・普通教室棟(西舎)	S54.3	44年		989	RC	4	調理場部分(336.2㎡)は除く
管理・普通教室棟(南舎)	S54.8	44年		3,096	RC	4	
屋内運動場	S54.8	44年		945	S	1	
精華小学校			7,510				
普通教室棟(北舎西側)	S46.3	52年		2,347	RC	3	
管理・普通教室棟(北舎東側)	S54.8	44年		1,194	RC	3	
特別・普通教室棟(南舎)	S54.8	44年		2,315	RC	3	
屋内運動場	S54.8	44年		945	S	1	
共栄小学校			5,031				
普通・特別教室棟(北舎)	S43.3	55年		1,527	RC	2	
管理・普通教室棟(南舎東側)	S53.5	45年		595	RC	1	
管理・普通教室棟(南舎西側)	S63.3	35年		630	RC	2	
屋内運動場	H5.9	30年		1,199	RC	2	
昭和小学校			7,369				
普通・特別教室棟(東舎)	S56.3	42年		2,703	RC	4	
普通・特別管理教室棟(西舎)	S57.3	41年		3,028	RC	4	
屋内運動場	H27.10	8年		992	RC	2	
小泉小学校			8,718				
校舎棟	R3.3	2年		6,933	RC	3	
体育館棟	R3.3	2年		1,337	S	2	
池田小学校			7,839				
管理・普通教室棟	H25.3	10年		4,053	RC	3/1	
特別教室棟	H25.3	10年		2,261	RC	3/1	
屋内運動場	H24.3	11年		1,093	S	1	
市之倉小学校			6,115				
管理普通教室棟(南舎西側)	S60.3	38年		3,084	RC	3	
普通教室棟(南舎東側)	H2.3	33年		709	RC	3	
特別教室棟(北舎)	S60.3	38年		1,031	RC	2	
屋内運動場	S61.3	37年		725	S	1	
滝呂小学校			9,781				
校舎棟	H18.3	17年		5,397	RC	2	
管理棟	H18.3	17年		2,749	RC	3/1	
屋内運動場	H18.3	17年		1,447	RC	2	
南姫小学校			4,802				
管理・普通・特別教室棟(南舎)	S42.3	56年		1,055	RC	2	
普通・教室特別教室棟(北舎西側)	S47.10	51年		1,145	RC	2	
普通・特別教室棟(北舎東側)	S51.12	46年		712	RC	3	
屋内運動場	H23.3	12年		976	RC	1	
根本小学校			6,799				
普通教室棟(北舎)	S50.8	48年		1,143	RC	3	
普通教室棟(南舎西側)	S50.8	48年		1,143	RC	3	
管理特別教室棟(南舎東側)	S51.8	47年		747	RC	3	
管理特別教室棟(東舎)	S51.3	47年		2,382	RC	3	
屋内運動場	S53.2	45年		945	S	1	
北栄小学校			8,708				
普通教室棟(北舎西側)	S55.3	43年		3,292	RC	3	

施設名称 / 主要建物	建築 年月	経過 年数	総延床 面積(㎡)	延床 面積(㎡)	構造	階数 (地上/地下)	備考
普通教室棟(北舎東側)	S59.3	39年		1,073	RC	3	
管理特別教室棟(南舎)	S55.3	43年		2,015	RC	3	
屋内運動場	S56.2	42年		945	S	1	
脇之島小学校			6,880				
管理普通特別教室棟(南舎)	S62.3	36年		1,225	RC	2	
管理特別教室棟(北舎東側)	S62.3	36年		2,345	RC	3	
普通特別教室棟(北舎西側)	H2.3	33年		1,844	RC	3	
屋内運動場	S63.2	35年		919	S	1	
笠原小学校			7,509				
普通特別教室棟(3舎)	S40.3	58年		1,174	RC	3	※現校舎の情報を記載 (令和8年度笠原中学校と統合 し、小中一貫校化)
管理特別教室棟(3舎)	S41.3	57年		887	RC	3	
管理普通特別教室棟(2舎)	S41.3	57年		2,399	RC	3	
普通特別教室棟(1舎)	S49.9	49年		1,316	RC	3	
屋内運動場	S42.3	56年		1,056	RC	1	
中学校							
陶都中学校			9,324				
管理特別普通教室棟(北舎)	H11.4	24年		6,703	RC	4	
特別教室棟(南舎)	H11.4	24年		485	RC	1	
アリーナ棟	H11.4	24年		1,852	RC	2	
多治見中学校			8,484				
特別教室棟	S57.3	41年		1,080	RC	2	
管理普通教室棟	H13.3	22年		1,121	RC	3	
屋内運動場棟	H13.3	22年		2,470	RC	2／1	
普通教室棟	H13.3	22年		863	RC	3	
普通教室棟	H13.3	22年		525	RC	2	
管理特別普通教室棟	H13.3	22年		1,160	RC	3	
特別教室棟	H13.3	22年		508	RC	2	
少人数教室棟	H20.8	15年		212	S	2	
平和中学校			8,066				
管理普通特別教室棟(南舎)	H5.3	30年		3,964	RC	3	
特別教室棟(北舎)	H5.3	30年		2,143	RC	3	
屋内運動場	H6.8	29年		1,123	RC	1	
小泉中学校			8,164				
特別普通教室棟(北舎西側)	S49.6	49年		1,457	RC	3	
普通教室棟(北舎東側)	S53.6	45年		810	RC	3	
特別教室棟(南舎)	S63.3	35年		2,635	RC	3	
多目的棟(南北舎接続部分)	S63.3	35年		641	RC	3	
屋内運動場	H7.3	28年		2,258	RC	2	
南ヶ丘中学校			7,318				
管理普通教室棟(南舎)	S58.3	40年		3,843	SRC	3	
特別教室棟(北舎)	S58.10	40年		1,699	RC	2	
屋内運動場	S59.3	39年		1,020	RC	1	
北陵中学校			7,872				
普通教室棟(南舎)	S54.8	44年		3,171	RC	3	
普通教室棟(南舎西側)	S61.2	37年		640	RC	3	
管理特別教室棟(北舎)	S54.8	44年		2,372	RC	3	
屋内運動場	S55.2	43年		1,020	RC	1	
南姫中学校			6,159				
管理普通特別教室棟(南舎)	S63.3	35年		3,118	RC	3	
特別教室棟(北舎)	S63.3	35年		1,340	RC	2	
屋内運動場	S63.7	35年		1,053	RC	1	

施設名称 / 主要建物	建築 年月	経過 年数	総延床 面積(㎡)	延床 面積(㎡)	構造	階数 (地上/地下)	備考
笠原中学校			8,666				※現校舎の情報を記載 (令和8年度笠原小学校と統合 し、小中一貫校化)
校舎棟(南舎)	S51.5	47年		3,805	RC	4	
校舎棟(北舎)	S51.5	47年		2,205	RC	4	
特別教室棟	S53.10	45年		500	S	1	
屋内運動場	S52.10	46年		1,707	RC	1	
学校給食施設(共同調理場)							
食育センター			3,677				
事務調理場棟	R3.6	2年		3,677	S	2	
養正小学校近接校対応調理場			959				養正小敷地内に併設
調理場棟	H28.5	7年		445	S	1	
休憩室部分(北舎1階)	H28.5	7年		64	RC	1	養正小校舎を転用
洗浄室・検収室部分(西舎1階)	H28.5	7年		336	RC	1	養正小校舎を転用
昭和小学校近接校対応調理場			1,006				昭和小敷地内に併設
調理場棟	H30.8	5年		883	S	1	昭和小食堂を転用
事務室棟	H30.8	5年		60	S	1	
幼稚園							
養正小学校附属幼稚園			865				
保育棟	S47.2	51年		260	S	1	
管理棟	H2.2	33年		596	RC	2	
精華小学校附属愛児幼稚園			1,280				
管理保育棟	H31.3	4年		1,280	RC	1	
昭和小学校附属幼稚園			554				
保育棟	S47.10	51年		315	S	1	
遊戯棟	S56.2	42年		218	S	1	
明和幼稚園			882				
管理保育棟	S52.4	46年		634	S	1	
保育棟	S62.1	36年		202	S	1	
笠原小学校附属幼稚園			1,260				
管理保育棟	S53.3	45年		998	RC	1	※現園舎の情報を記載 (令和8年度笠原保育園と統合 し、認定こども園化)
管理保育棟(増築分)	H9.8	26年		238	S	1	

※ 経過年数は令和5年10月1日を基準に算出しています。

※ 構造…RC:鉄筋コンクリート造 S:鉄骨造 SRC:鉄骨鉄筋コンクリート造 CB:コンクリートブロック造 W:木造

【資料編】 2. 小学校区別人口推計(年齢三区分別)

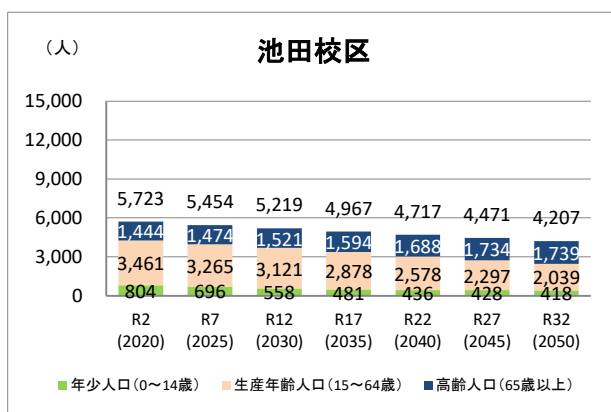
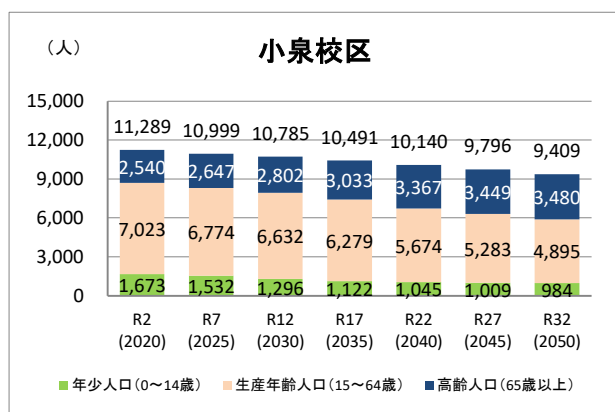
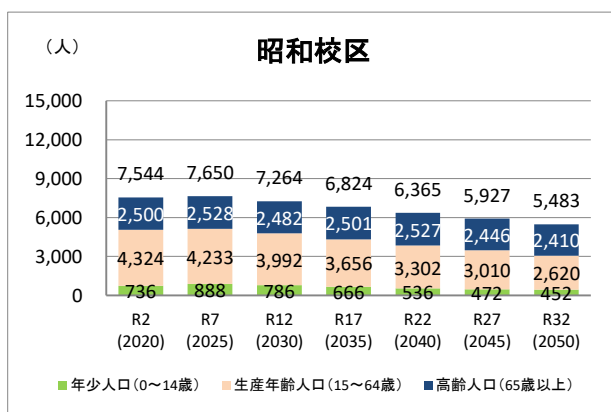
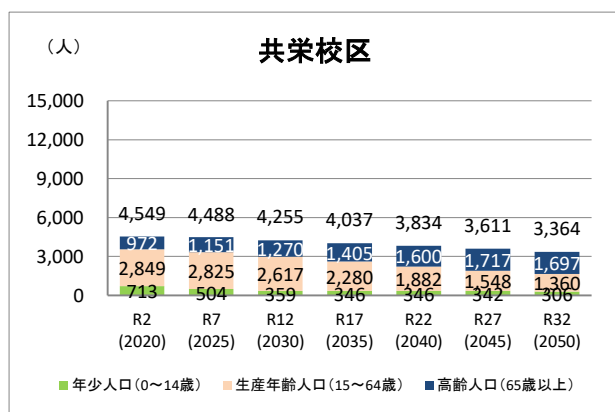
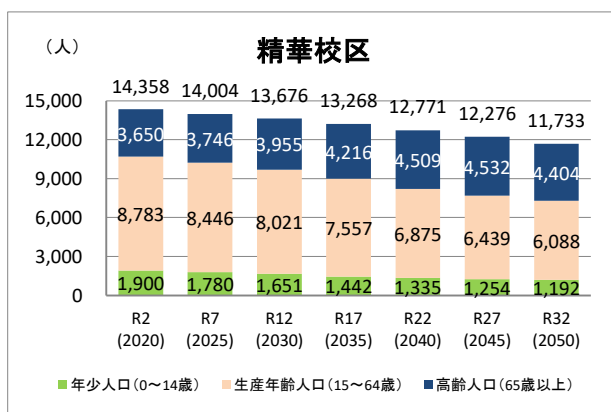
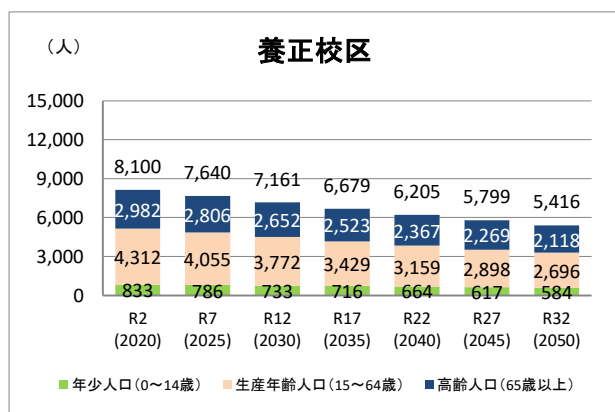
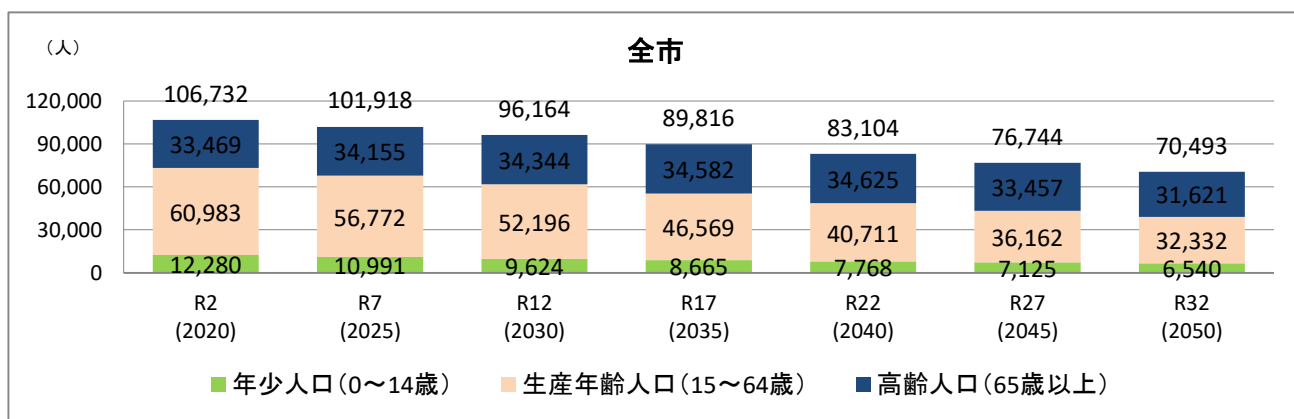
※括弧内の数字は総人口に対する割合を示します。(単位：人)

《 全市 》	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
総人口	106,732 (100%)	101,918 (100%)	96,164 (100%)	89,816 (100%)	83,104 (100%)	76,744 (100%)	70,493 (100%)
年少人口 (0～14歳)	12,280 (12%)	10,991 (11%)	9,624 (10%)	8,665 (10%)	7,768 (9%)	7,125 (9%)	6,540 (9%)
生産年齢人口 (15～64歳)	60,983 (57%)	56,772 (56%)	52,196 (54%)	46,569 (52%)	40,711 (49%)	36,162 (47%)	32,332 (46%)
高齢人口 (65歳以上)	33,469 (31%)	34,155 (34%)	34,344 (36%)	34,582 (39%)	34,625 (42%)	33,457 (44%)	31,621 (45%)

(単位：人)

養正校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	8,100 (7.6%)	7,640 (7.5%)	7,161 (7.4%)	6,679 (7.4%)	6,205 (7.5%)	5,799 (7.6%)	5,416 (7.7%)
年少人口 (0～14歳)	833 (0.8%)	786 (0.8%)	733 (0.8%)	716 (0.8%)	664 (0.8%)	617 (0.8%)	584 (0.8%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,312 (4%)	4,055 (4%)	3,772 (3.9%)	3,429 (3.8%)	3,159 (3.8%)	2,898 (3.8%)	2,696 (3.8%)
高齢人口 (65歳以上)	2,982 (2.8%)	2,806 (2.8%)	2,652 (2.8%)	2,523 (2.8%)	2,367 (2.8%)	2,269 (3%)	2,118 (3%)
精華校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	14,358 (13.5%)	14,004 (13.7%)	13,676 (14.2%)	13,268 (14.8%)	12,771 (15.4%)	12,276 (16%)	11,733 (16.6%)
年少人口 (0～14歳)	1,900 (1.8%)	1,780 (1.7%)	1,651 (1.7%)	1,442 (1.6%)	1,335 (1.6%)	1,254 (1.6%)	1,192 (1.7%)
生産年齢人口 (15～64歳)	8,783 (8.2%)	8,446 (8.3%)	8,021 (8.3%)	7,557 (8.4%)	6,875 (8.3%)	6,439 (8.4%)	6,088 (8.6%)
高齢人口 (65歳以上)	3,650 (3.4%)	3,746 (3.7%)	3,955 (4.1%)	4,216 (4.7%)	4,509 (5.4%)	4,532 (5.9%)	4,404 (6.2%)
共栄校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	4,549 (4.3%)	4,488 (4.4%)	4,255 (4.4%)	4,037 (4.5%)	3,834 (4.6%)	3,611 (4.7%)	3,364 (4.8%)
年少人口 (0～14歳)	713 (0.7%)	504 (0.5%)	359 (0.4%)	346 (0.4%)	346 (0.4%)	342 (0.4%)	306 (0.4%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,849 (2.7%)	2,825 (2.8%)	2,617 (2.7%)	2,280 (2.5%)	1,882 (2.3%)	1,548 (2%)	1,360 (1.9%)
高齢人口 (65歳以上)	972 (0.9%)	1,151 (1.1%)	1,270 (1.3%)	1,405 (1.6%)	1,600 (1.9%)	1,717 (2.2%)	1,697 (2.4%)
昭和校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	7,544 (7.1%)	7,650 (7.5%)	7,264 (7.6%)	6,824 (7.6%)	6,365 (7.7%)	5,927 (7.7%)	5,483 (7.8%)
年少人口 (0～14歳)	736 (0.7%)	888 (0.9%)	786 (0.8%)	666 (0.7%)	536 (0.6%)	472 (0.6%)	452 (0.6%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,324 (4.1%)	4,233 (4.2%)	3,992 (4.2%)	3,656 (4.1%)	3,302 (4%)	3,010 (3.9%)	2,620 (3.7%)
高齢人口 (65歳以上)	2,500 (2.3%)	2,528 (2.5%)	2,482 (2.6%)	2,501 (2.8%)	2,527 (3%)	2,446 (3.2%)	2,410 (3.4%)
小泉校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	11,289 (10.6%)	10,999 (10.8%)	10,785 (11.2%)	10,491 (11.7%)	10,140 (12.2%)	9,796 (12.8%)	9,409 (13.3%)
年少人口 (0～14歳)	1,673 (1.6%)	1,532 (1.5%)	1,296 (1.3%)	1,122 (1.2%)	1,045 (1.3%)	1,009 (1.3%)	984 (1.4%)
生産年齢人口 (15～64歳)	7,023 (6.6%)	6,774 (6.6%)	6,632 (6.9%)	6,279 (7%)	5,674 (6.8%)	5,283 (6.9%)	4,895 (6.9%)
高齢人口 (65歳以上)	2,540 (2.4%)	2,647 (2.6%)	2,802 (2.9%)	3,033 (3.4%)	3,367 (4.1%)	3,449 (4.5%)	3,480 (4.9%)
池田校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	5,723 (5.4%)	5,454 (5.4%)	5,219 (5.4%)	4,967 (5.5%)	4,717 (5.7%)	4,471 (5.8%)	4,207 (6%)
年少人口 (0～14歳)	804 (0.8%)	696 (0.7%)	558 (0.6%)	481 (0.5%)	436 (0.5%)	428 (0.6%)	418 (0.6%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,461 (3.2%)	3,265 (3.2%)	3,121 (3.2%)	2,878 (3.2%)	2,578 (3.1%)	2,297 (3%)	2,039 (2.9%)
高齢人口 (65歳以上)	1,444 (1.4%)	1,474 (1.4%)	1,521 (1.6%)	1,594 (1.8%)	1,688 (2%)	1,734 (2.3%)	1,739 (2.5%)

※上記の人口推計は、各計算過程において四捨五入により整数としている都合上、合計値と内訳は必ずしも一致しません。



(単位：人)

市之倉校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	6,027 (5.6%)	5,509 (5.4%)	4,942 (5.1%)	4,350 (4.8%)	3,736 (4.5%)	3,149 (4.1%)	2,607 (3.7%)
年少人口 (0～14歳)	463 (0.4%)	388 (0.4%)	352 (0.4%)	336 (0.4%)	262 (0.3%)	209 (0.3%)	160 (0.2%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,211 (3%)	2,668 (2.6%)	2,132 (2.2%)	1,688 (1.9%)	1,321 (1.6%)	1,060 (1.4%)	825 (1.2%)
高齢人口 (65歳以上)	2,376 (2.2%)	2,477 (2.4%)	2,489 (2.6%)	2,366 (2.6%)	2,190 (2.6%)	1,916 (2.5%)	1,652 (2.3%)
滝呂校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	8,846 (8.3%)	8,432 (8.3%)	7,932 (8.2%)	7,393 (8.2%)	6,860 (8.3%)	6,370 (8.3%)	5,867 (8.3%)
年少人口 (0～14歳)	1,230 (1.2%)	951 (0.9%)	757 (0.8%)	692 (0.8%)	659 (0.8%)	642 (0.8%)	597 (0.8%)
生産年齢人口 (15～64歳)	5,200 (4.9%)	5,039 (4.9%)	4,595 (4.8%)	3,962 (4.4%)	3,365 (4%)	2,927 (3.8%)	2,603 (3.7%)
高齢人口 (65歳以上)	2,408 (2.3%)	2,436 (2.4%)	2,579 (2.7%)	2,736 (3%)	2,832 (3.4%)	2,801 (3.6%)	2,677 (3.8%)
南姫校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	4,503 (4.2%)	4,194 (4.1%)	3,859 (4%)	3,519 (3.9%)	3,180 (3.8%)	2,846 (3.7%)	2,520 (3.6%)
年少人口 (0～14歳)	397 (0.4%)	343 (0.3%)	329 (0.3%)	321 (0.4%)	311 (0.4%)	270 (0.4%)	215 (0.3%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,611 (2.4%)	2,352 (2.3%)	2,061 (2.1%)	1,701 (1.9%)	1,387 (1.7%)	1,185 (1.5%)	1,055 (1.5%)
高齢人口 (65歳以上)	1,498 (1.4%)	1,500 (1.5%)	1,472 (1.5%)	1,501 (1.7%)	1,486 (1.8%)	1,400 (1.8%)	1,262 (1.8%)
根本校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	11,358 (10.6%)	10,672 (10.5%)	9,913 (10.3%)	9,052 (10.1%)	8,163 (9.8%)	7,368 (9.6%)	6,615 (9.4%)
年少人口 (0～14歳)	1,230 (1.2%)	1,044 (1%)	925 (1%)	839 (0.9%)	729 (0.9%)	648 (0.8%)	561 (0.8%)
生産年齢人口 (15～64歳)	6,213 (5.8%)	5,733 (5.6%)	5,206 (5.4%)	4,520 (5%)	3,803 (4.6%)	3,237 (4.2%)	2,824 (4%)
高齢人口 (65歳以上)	3,911 (3.7%)	3,905 (3.8%)	3,798 (3.9%)	3,709 (4.1%)	3,646 (4.4%)	3,499 (4.6%)	3,251 (4.6%)
北栄校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	9,131 (8.6%)	8,594 (8.4%)	7,955 (8.3%)	7,210 (8%)	6,405 (7.7%)	5,668 (7.4%)	4,999 (7.1%)
年少人口 (0～14歳)	1,003 (0.9%)	807 (0.8%)	705 (0.7%)	631 (0.7%)	544 (0.7%)	473 (0.6%)	414 (0.6%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,762 (4.5%)	4,276 (4.2%)	3,814 (4%)	3,304 (3.7%)	2,742 (3.3%)	2,248 (2.9%)	1,885 (2.7%)
高齢人口 (65歳以上)	3,381 (3.2%)	3,540 (3.5%)	3,474 (3.6%)	3,312 (3.7%)	3,152 (3.8%)	2,978 (3.9%)	2,729 (3.9%)
脇之島校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	5,941 (5.6%)	5,625 (5.5%)	5,235 (5.4%)	4,751 (5.3%)	4,149 (5%)	3,507 (4.6%)	2,907 (4.1%)
年少人口 (0～14歳)	482 (0.5%)	469 (0.5%)	423 (0.4%)	366 (0.4%)	268 (0.3%)	223 (0.3%)	204 (0.3%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,105 (2.9%)	2,418 (2.4%)	2,006 (2.1%)	1,713 (1.9%)	1,509 (1.8%)	1,234 (1.6%)	929 (1.3%)
高齢人口 (65歳以上)	2,374 (2.2%)	2,765 (2.7%)	2,847 (3%)	2,722 (3%)	2,422 (2.9%)	2,088 (2.7%)	1,797 (2.5%)
笠原校区	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
校区人口	9,364 (8.8%)	8,659 (8.5%)	7,969 (8.3%)	7,275 (8.1%)	6,579 (7.9%)	5,955 (7.8%)	5,367 (7.6%)
年少人口 (0～14歳)	815 (0.8%)	801 (0.8%)	749 (0.8%)	707 (0.8%)	633 (0.8%)	537 (0.7%)	455 (0.6%)
生産年齢人口 (15～64歳)	5,135 (4.8%)	4,690 (4.6%)	4,225 (4.4%)	3,603 (4%)	3,109 (3.7%)	2,794 (3.6%)	2,510 (3.6%)
高齢人口 (65歳以上)	3,428 (3.2%)	3,176 (3.1%)	2,999 (3.1%)	2,964 (3.3%)	2,838 (3.4%)	2,627 (3.4%)	2,407 (3.4%)

※上記の人口推計は、各計算過程において四捨五入により整数としている都合上、合計値と内訳は必ずしも一致しません。

